

平成30年度（2018年度）採択プログラム 中間評価調書

卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

| | | | | | |
|---|--|--|---|---|------|
| 機関名 | | 東京農工大学 | | 整理番号 | 1806 |
| 1. | プログラム名称 | 「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成 | | | |
| | 英語名称 | Excellent Leader Development for Super Smart Society by New Industry Creation and Diversity | | | |
| 2. | 全体責任者 (学長) | ふりがな 氏名(職名) | (ちば かずひろ) 千葉 一裕 (東京農工大学長) | ※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるものは基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 | |
| 3. | プログラム責任者 | ふりがな 氏名(職名) | (ありえ つとむ) 有江 力 (東京農工大学理事(教育担当)・副学長) | | |
| 4. | プログラム コーディネーター | ふりがな 氏名(職名) | (ごみ たかし) 五味 高志 (東京農工大学大学院連合農学研究科環境資源共生科学専攻・教授・卓越リーダー養成機構長) | | |
| 5. | 設定する領域 | 最も重視する領域 【必須】 | ③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域 | | |
| | | 関連する領域(1) 【任意】 | ②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域 | | |
| | | 関連する領域(2) 【任意】 | | | |
| | | 関連する領域(3) 【任意】 | | | |
| 6. | 主要区分 | 最も関連の深い区分 (大区分) | F | | |
| | | 最も関連の深い区分 (中区分) | 40 | 森林圏科学、水圏応用科学およびその関連分野 | |
| | | 最も関連の深い区分 (小区分) | 40010 | 森林科学関連 | |
| | | 次に関連の深い区分 (大区分)【任意】 | J | | |
| | | 次に関連の深い区分 (中区分)【任意】 | 61 | 人間情報学およびその関連分野 | |
| | | 次に関連の深い区分 (小区分)【任意】 | 61050 | 知能ロボティクス関連 | |
| 7. | 授与する博士学位分野・名称 | 博士(農学)、博士(工学)、博士(学術)、博士(生命科学)、博士(獣医学) 付記する名称: 博士課程卓越大学院プログラム | | | |
| 8. | 学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。) | 農学府生物生産科学専攻、共生持続社会学専攻、応用生命化学専攻、生物制御科学専攻、環境資源物質科学専攻、物質循環環境科学専攻、自然環境保全学専攻、農業環境工学専攻、国際環境農学専攻、共同獣医学専攻、農学専攻、工学府生命工学専攻、応用化学専攻、機械システム工学専攻、電子情報工学専攻、物理システム工学専攻、電気電子工学専攻、情報工学専攻、産業技術専攻、共同サステイナビリティ研究専攻、連合農学研究科生物生産科学専攻、応用生命科学専攻、環境資源共生科学専攻、農業環境工学専攻、農林共生社会科学専攻、生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻、共同先進健康科学専攻、食料エネルギーシステム科学専攻 | | | |
| 9. | 連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入 | | | 10. 本プログラムによる学位授与数(年度当たり)の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。 | |
| 連合大学院 | | 共同教育課程 | | 22名 | |
| 11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名) | | | | | |
| 株式会社クボタ、イオンアグリ創造株式会社、株式会社島津製作所、一般財団法人日本自動車研究所、公益社団法人日本農業法人協会、一般社団法人首都圏産業活性化協会、株式会社リバネス、株式会社リクルートキャリア、実践女子大学、コーネル大学、カリフォルニア大学(デービス校)、オックスフォード大学、ライプニッツ農業景観研究所(ZALF研究所)、ボン大学、ベトナム林業大学、ガジャマダ大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校 | | | | | |

(【1806】機関名: 東京農工大学 プログラム名称: 「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)

[公表]

| 14. プログラム担当者一覧 | | | | | | | | |
|----------------|--------------------------|-----------|----|---|----------|-----------------------|---|---------|
| ※「年齢」は公表しません。 | | | | | | | | |
| 番号 | 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポート(割合) |
| 1 | (プログラム責任者) 有江 力 | アリエ ツトム | | 東京農工大学・理事(教育担当)・副学長 | 博士(農学) | 植物保護科学 | プログラム責任者 事業総括 | 1 |
| 2 | (プログラムコーディネーター) 五味 高志 | ゴミ タカシ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科国際イノベーション農学コース・教授・卓越リーダー養成機構長 | 博士(農学) | 森林水文学/ 流域資源管理 学 | プログラムコーディネーター/ プログラムの管理・運営 及び運営委員会委員長 | 3 |
| 3 | 斎藤 広隆 | サイドウ ヒロカ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科農業環境工学専攻・教授 | Ph. D. | 農業環境工学 | プログラム副コーディネーター/ プログラムの管理・運営 補佐 | 2 |
| 4 | 吉田 誠 | ヨシダ マコト | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・教授 | 博士(農学) | 生分解制御学 | プログラム副コーディネーター/ プログラムの管理・運営 補佐 | 1 |
| 5 | 滝山 博志 | タキヤマ ヒロシ | | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 博士(工学) | 化学工学 | プログラム副コーディネーター/ プログラムの管理・運営 補佐 | 1 |
| 6 | 近藤 敏之 | コトウ トシユキ | | 東京農工大学大学院工学府情報工学専攻・教授 | 博士(工学) | 知能情報工学 | プログラム副コーディネーター/ プログラムの管理・運営 補佐 | 2 |
| 7 | 岩田 陽子 | イワタ ヨコ | | 東京農工大学グローバル教育院・准教授 | 修士(社会科学) | カリキュラム開発 | プログラム副コーディネーター/ プログラムの管理・運営 補佐 | 2 |
| 8 | 船田 良 | フナタ リョウ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科長 | 博士(農学) | 樹木生理学 | プログラムの管理・運営補佐 | 1 |
| 9 | 大津 直子 | オツ ナホ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学コース・教授 | 農学博士 | 植物栄養/土壌肥科学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 10 | 天竺桂 弘子 | テンヂクキ ヒロコ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学コース・教授 | 博士(農学) | 昆虫学および生化学 | 国際連携教育担当 | 2 |
| 11 | 千年 篤 | チセ アツシ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科地球社会学コース・教授 | Ph. D. | 農業経済学 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 12 | 三浦 豊 | ミウラ ユカ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科応用生命化学コース・教授 | 博士(農学) | 食品科学/栄養化学 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 13 | 木村 郁夫 | キムラ イクオ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科農学研究院・特任教授 | 博士(薬学) | 食品科学/薬理学 | 産官学連携教育担当 | 2 |
| 14 | 仲井 まどか | ナカイ マドカ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学コース・教授 | 博士(農学) | 応用昆虫学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 15 | 小松 健 | コマツ ケン | | 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学コース・准教授 | 博士(生命科学) | 植物病理学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 16 | 井上 真紀 | イノウエ マキ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学コース・准教授 | 博士(農学) | 応用昆虫学/ 昆虫病理生態学 | 教育プログラム担当 | 0.5 |
| 17 | 四方 俊幸 | シカタ トシユキ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・教授 | 理学博士 | 高分子物理化学 | 教育プログラム担当 | 0.5 |
| 18 | 半 智史 | ナカハチ サトシ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・准教授 | 博士(農学) | 樹木細胞生物学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 19 | 松田 和秀 | マツタ カズヒデ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・教授 | 博士(理学) | 大気環境科学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 20 | 大地 まどか | オチジ マドカ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・准教授 | 博士(農学) | 海洋環境学 | 国際連携教育担当 | 2 |
| 21 | 金子 弥生 | カネコ ヤヨイ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・准教授 | 博士(農学) | 野生動物保護管理 学 | 教育プログラム担当 | 0.3 |
| 22 | 加用 千裕 | カヨウ チヒロ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・准教授 | 博士(工学) | 森林計画学/ 木材資源利用 学 | 教育プログラム担当 | 0.5 |
| 23 | 澁澤 栄 | シブサリ サカエ | | 東京農工大学卓越リーダー養成機構・特任教授 | 農学博士 | 農業環境工学 | プログラムの管理・運営補佐 | 10 |
| 24 | 辰巳 賢一 | タツミ ケンイチ | | 東京農工大学大学院連合農学研究科食農情報工学コース・准教授 | 博士(工学) | 農業情報気象学 | 産官学連携教育担当 | 2 |
| 25 | 山下 恵 | ヤマシタ メグミ | | 東京農工大学大学院農学府食農情報工学コース・講師 | 博士(工学) | 空間情報学 | 産官学連携教育担当 | 2 |

(【1806】機関名：東京農工大学 プログラム名称：「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)

[公表]

14. プログラム担当者一覧(続き)

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | イフォート(割合) |
|----|------------------------------|------------------|---|----------|---------------------|--------------------------|-----------|
| 26 | 山田 祐彰 | ヤマダ ムサアキ | 東京農工大学大学院連合農学研究科国際イノベーション農学コース・教授 | Ph. D. | 国際地域開発学 | 国際連携教育担当 | 2 |
| 27 | 岡崎 伸 | オカザキ シン | 東京農工大学大学院連合農学研究科国際イノベーション農学コース・教授 | 博士(農学) | 微生物学 | 教育プログラム担当 | 0.5 |
| 28 | 加藤 亮 | カトウ タスク | 東京農工大学大学院連合農学研究科農業環境工学専攻国際イノベーション農学コース・教授 | 博士(農学) | 農業水利 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 29 | 水谷 哲也 | ミズタニ テツヤ | 東京農工大学大学院農学府国際イノベーション農学コース・教授 | 博士(獣医学) | ウイルス学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 30 | 石原 加奈子 | イシハラ カノ | 東京農工大学大学院農学府国際イノベーション農学コース・准教授 | 博士(獣医学) | 衛生微生物学 | 教育プログラム担当 | 0.5 |
| 31 | 笹原 弘之 | ササハラ ヒロキ | 東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻・教授 | 博士(工学) | 機械加工学 | プログラムの管理・運営補佐 | 1 |
| 32 | 池袋 一典 | イケブクロ カズノリ | 東京農工大学大学院工学府生命工学専攻・教授 | 博士(工学) | 生物工学 | 産官学連携教育担当 | 2 |
| 33 | 津川 若子 | ツカワリ ワカコ | 東京農工大学大学院工学府生命工学専攻・准教授 | 博士(工学) | バイオセンシング技術 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 34 | 吉野 知子 | ヨシノ トモコ | 東京農工大学大学院工学府生命工学専攻・教授 | 博士(工学) | 生物工学 | 産官学連携教育担当 プログラム管理運営補佐 | 0.5 |
| 35 | 山下 善之 | ヤマシタ ヨシユキ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 工学博士 | プロセスシステム工学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 36 | 櫻井 香里 | サクライ カオリ | 東京農工大学大学院工学府生命工学専攻・准教授 | Ph. D. | ケミカルバイオロジー | 教育プログラム担当 | 2 |
| 37 | 齋藤 拓 | サイトウ ヒロム | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 博士(工学) | 高分子物性 | 産官学連携教育担当 | 0.3 |
| 38 | 寺田 昭彦 | テラダ アキヒロ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 博士(工学) | 環境バイオテクノロジー | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 39 | 村上 尚 | ムラカミ ヒサシ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・准教授 | 博士(工学) | 結晶工学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 40 | 帯刀 陽子 | オビヅキ ヨウコ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・講師 | 博士(地球環境) | 物性化学 | 教育プログラム担当 | 2 |
| 41 | 水内 郁夫 | ミズノウチ イクオ | 東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻・教授 | 博士(工学) | ロボティクス | 産官学連携教育担当 | 2 |
| 42 | RAKSINCHAROENSAK PONGSATHORN | クシンチャレンサク ホンソトーン | 東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻・教授 | 工学博士 | 機械力学/制御 | 国際連携教育担当 | 2 |
| 43 | Venture Gentiane | ベンチャー ジェンチャン | 東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻・教授 | 工学博士 | 知能ロボティクス工学 | 国際連携教育担当 | 0.1 |
| 44 | 畠山 温 | ハタケヤマ ムツシ | 東京農工大学大学院工学府物理システム工学専攻・教授 | 博士(理学) | 先端物理学 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 45 | 清水 昭伸 | シミズ アキノブ | 東京農工大学大学院工学府電気電子工学専攻・教授 | 博士(工学) | 高次元画像処理 | 教育プログラム担当 | 2 |
| 46 | 田中 聡久 | タナカ トシヒサ | 東京農工大学大学院工学府電子情報工学専攻・教授 | 博士(工学) | 生体情報学/信号処理工学 | 国際連携教育担当 | 3 |
| 47 | 清水 大雅 | シミズ ヒロマサ | 東京農工大学大学院工学府電子情報工学専攻・准教授 | 博士(工学) | 光エレクトロニクス | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 48 | 中川 正樹 | ナカガワ マサキ | 東京農工大学・副学長 | 理学博士 | パターン認識/ヒューマンインタフェース | 産官学連携教育担当 | 2 |
| 49 | 藤田 桂英 | フジタ カツヒデ | 東京農工大学大学院工学府情報工学専攻・准教授 | 博士(工学) | 人工知能 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 50 | 清水 郁子 | シミズ イクコ | 東京農工大学大学院工学府情報工学専攻・准教授 | 博士(工学) | 情報学/知覚情報処理 | 教育プログラム担当 | 2 |
| 51 | 山田 浩史 | ヤマダ ヒロシ | 東京農工大学大学院工学府産業技術専攻・准教授 | 博士(工学) | システムソフトウェア | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 52 | 豊田 剛己 | トヨダ コウキ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府食料エネルギーシステム科学専攻・教授 | 博士(農学) | 土壌微生物学 | プログラムの管理・運営補佐 | 1 |
| 53 | 石田 寛 | イシダ ヒロシ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻・教授 | 博士(工学) | 先端ロボティクス | 国際連携教育担当 | 2 |
| 54 | WULED LENGGORO | ウレット レンゴロ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 博士(工学) | 化学工学 | 国際連携教育担当 | 2 |
| 55 | 梶田 真也 | カジタ シンヤ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府・生物機能システム科学専攻・教授 | 博士(農学) | 樹木遺伝子工学/バイオマス | 教育プログラム担当 | 0.5 |

(【1806】機関名：東京農工大学 プログラム名称：「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポート(割合) |
|----|-------------------------|------------------|---|---------------------|---|---------------|---------|
| 56 | 稲田 全規 | イダ マサキ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻・准教授 | 歯学博士 | 病態生理学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 57 | 飯田 聡 | イダ サトシ | 株式会社クボタ・顧問 | 工学博士 | 機械工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 58 | 坂根 弘史 | サカネ ヒロフミ | 株式会社クボタ・研究開発本部・理事 | 工学博士 | 機械工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 59 | 福永 庸明 | フクナガ ユサキ | イオンアグリ創造株式会社・代表取締役 | 学士 | 生産・流通 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 60 | 北岡 光夫 | キタオカ ミツオ | 株式会社島津製作所・基盤技術研究所・所長 | 理学士 | 分析計測 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 61 | 永井 正夫 | ナガイ マサオ | 一般財団法人日本自動車研究所・研究所長 | 工学博士 | 自動運転 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 62 | 安部 原也 | アベ ゲンヤ | 一般財団法人日本自動車研究所・安全研究部総合安全グループ | Ph. D. | 認知システム工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 63 | 山中 邦夫 | ヤマナカ ケニオ | 公益社団法人日本農業法人協会・事務局長 | 農学修士 | | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 64 | 松本 浩造 | マツモト コウゾウ | 一般社団法人首都圏産業活性化協会・シニアテクニカルアドバイザー | | 中小企業の産業支援 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 65 | 岡崎 敬 | オカザキ ケイ | 株式会社リバネス・人材開発事業部長 | 博士(理学) | 人材育成 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 66 | 丸川 智生 | マルカワ トモキ | 株式会社リクルートキャリア・マネージャー | 学士 | キャリア支援 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 67 | 於保 祐子 | オホ ユウコ | 実践女子大学・大学院生活科学研究科食物栄養学専攻・教授 | 博士(医学) | 応用栄養学 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 68 | 白尾 美佳 | シラオ ミカ | 実践女子大学・大学院生活科学研究科食物栄養学専攻・教授 | 医学博士 | 食品栄養学 | 教育プログラム担当 | 1 |
| 69 | B. Gillian Turgeon | B. キリアン タージョン | Cornell University, CALS, Section of Plant Pathology & Plant-Microbe Biology, School of Integrative Plant Science・Professor | Ph. D. | Plant-fungal interactions & plant pathology | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 70 | Shrini K. Upadhyaya | シュリニ K. ウパディヤヤ | UC Davis, Department of Biological and Agricultural Engineering,・Professor | Ph. D. | Biological and Agricultural Engineering | 国際連携教育担当 | 0.1 |
| 71 | Yoshifumi Itoh | ヨシフミ イトウ | University of Oxford, Kennedy Institute of Rheumatology・Associate Professor | Ph. D. | Biochemistry | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 72 | 木村 園子 ドロテア | キムラ ソノコ ドロテア | Leibniz Centre for Agricultural Landscape Research・教授 | 博士(農学) | 土壌学/景観生態学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 73 | Florian M.W. Grundler | フロリアン M.W. グルント | Bonn University, Agriculture, Plant Pathology・Professor and Chair, Head of Department | Ph. D. | Molecular Plant Pathology/Neematology | 国際連携教育担当 | 0.1 |
| 74 | Ir. Sri Nugroho Marsoem | Ir. スリ スグロホ マルスム | Universitas Gadjah Mada, Indonesia, Faculty of Forestry・Professor | Ph. D (Agriculture) | Wood science and forest science | 国際連携教育担当 | 0.3 |
| 75 | Bui Xuan Dung | ブイ シュオン スン | Vietnam National University of Forestry・Associate Professor | Ph. D. | Forest Hydrology | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 76 | PHAN MINH KHANH | ファン ミン カン | 東京農工大学卓越リーダー養成機構・特任助教 | 博士(農学) | | プログラムの管理・運営補佐 | 10 |
| 77 | 早出 広司 | ソウデ ヒロシ | ノースカロライナ大学チャペルヒル校・Distinguished professor | 博士(工学) | 生物医学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 78 | 一條 洋子 | イチジョウ ヨウコ | 東京農工大学卓越リーダー養成機構・特任准教授 | 修士(農学) | | プログラムの管理・運営補佐 | 10 |
| 79 | 山本 明保 | ヤマモト アキヤス | 東京農工大学大学院工学府生体医用システム工学科・准教授 | 博士(工学) | 電子・電気材料工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 80 | 杉原 創 | スギハラ ソウ | 東京農工大学グローバルイノベーション研究院・准教授 | 博士(農学) | 植物栄養学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 81 | 大川 泰一郎 | オホカワ タイイチロウ | 東京農工大学大学院農学府生物生産科学コース・教授 | 博士(農学) | 作物学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 82 | 堀川 祥生 | ホリカワ ショウセイ | 東京農工大学大学院連合農学研究科自然環境資源コース・准教授 | 博士(農学) | 木質科学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 83 | 桂 圭祐 | カヅラ ケイスケ | 東京農工大学大学院農学府国際イノベーション農学コース・准教授 | 博士(農学) | 作物学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 84 | 川野 竜司 | カノ リュウジ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府生命工学専攻・教授 | 博士(工学) | 生命医療情報学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 85 | 中澤 靖元 | ナカザワ ヤスモト | 東京農工大学大学院工学府生命工学専攻・教授 | 博士(工学) | 医用生体工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |

(【1806】機関名：東京農工大学 プログラム名称：「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポート(割合) |
|-----|-------|-------------|--|---------|--------|---------------|---------|
| 86 | 伏見 千尋 | フシミ チヒロ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・教授 | 博士(工学) | 反応工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 87 | 神谷 秀博 | カニヤ ヒデアキ | 東京農工大学・理事・副学長 | 博士(工学) | 化学工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 88 | 富永 洋一 | トミカネ ヨウイチ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府食料エネルギーシステム科学専攻・教授 | 博士(工学) | 高分子化学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 89 | 秋澤 淳 | アキザワ アツシ | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府食料エネルギーシステム科学専攻・教授 | 博士(工学) | エネルギー学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 90 | 東城 清秀 | トウジヨウ セイシュウ | 東京農工大学大学院農学府農学専攻食農情報工学コース・教授 | 博士(農学) | 農業環境工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 91 | 帖佐 直 | チヨウサ ナオキ | 東京農工大学大学院農学府食農情報工学コース・准教授 | 博士(農学) | 農業環境工学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 92 | 中野 幸司 | ナカノ コウジ | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻・准教授 | 博士(工学) | 機能物質化学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 93 | 草処 基 | クサトコロ モトキ | 東京農工大学大学院農学府地球社会学コース・准教授 | 博士(農学) | 社会農学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 94 | 新村 毅 | シンムラ ツヨシ | 東京農工大学大学院農学府・グローバルイノベーション研究院・准教授 | 博士(学術) | 統合動物科学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 95 | 杉村 智史 | スギムラ サトシ | 東京農工大学大学院農学府・准教授 | 博士(農学) | 動物生産科学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 96 | 直井 勝彦 | ナオイ カツヒコ | 東京農工大学・理事・副学長 | 博士(工学) | エネルギー学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 97 | 田中 綾 | タナカ リョウ | 東京農工大学グローバルイノベーション研究院・教授 | 博士(獣医学) | 臨床獣医学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 98 | 小林 真里 | コバヤシ マリ | 東京農工大学卓越リーダー養成機構・特任准教授 | 博士(医科学) | | プログラムの管理・運営補佐 | 10 |
| 99 | 尾崎 宏和 | オザキ ヒロカズ | 東京農工大学卓越リーダー養成機構・特任講師 | 博士(農学) | | プログラムの管理・運営補佐 | 10 |
| 105 | | | | | | | |
| 106 | | | | | | | |
| 107 | | | | | | | |
| 108 | | | | | | | |
| 109 | | | | | | | |
| 110 | | | | | | | |
| 111 | | | | | | | |
| 112 | | | | | | | |
| 113 | | | | | | | |
| 114 | | | | | | | |
| 115 | | | | | | | |

(【1806】機関名：東京農工大学 プログラム名称：「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成)

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

「ダイバーシティ推進と新産業創出に向けた基盤の構築」、「国内外連携機関との連携による新産業創出およびダイバーシティ教育の展開」、「教育プログラムとしての効果検証」を三つの柱として、農工融合によるイノベーションを展開する教育研究エコシステムを構築できた。

＜ダイバーシティ推進と新産業創出に向けた基盤の構築＞

農学と工学を基盤として、「超スマート社会」への社会的課題の解決、ダイバーシティの理解によるリーダーシップの発揮できる人材育成カリキュラムが構築された。「知のプロフェッショナル」の養成では、産業界との連携強化と社会課題の解決とともに、国際機関との連携などによる多様な博士人材のキャリア構築への教育研究体制が確立できた。部局の枠を超えてデータサイエンスを学ぶことで現場立脚型の基礎的素養が備わる体制を整備できた。

＜国内外連携機関との連携による新産業創出およびダイバーシティ教育の展開＞

農工の枠を超えた連携や海外研修、さらにはインターンシップを実施することができた。カリキュラム内での連携機関からの課題提案に対応する課題解決手法やビジネスプランニングを行うことで、連携が強化されるとともに、学生の自主的な学びの中での連携に発展するなどの新事業展開の実践的教育体制が構築できた。ダイバーシティ・インクルージョンの考え方が醸成され、人や組織の多様性の理解や活用によるリーダー人材としての素養を獲得するカリキュラムを構築できた。

＜教育プログラムとしての効果検証＞

プログラムでの学びをポートフォリオシステムとしてデジタル化し、学生自らが学びを振り返るとともに、自分自身の到達や目標に応じた振り返りと自主的強化項目選定を行える仕組みを構築した。学会発表、論文掲載、研究費獲得、資格取得、表彰、セミナー主催などの学内外の多様な活動もデータベース化し、網羅的活動成果の記録、自分自身の振り返り、教員の指導やカリキュラムへのフィードバックを可能とした。

本プログラムの柱を全学展開するために、学長ビジョンのもと、自由な発想で先端研究を行う「場」と、研究シーズの社会展開力を合わせ持つ人材養成、社会実装へのサポート体制整備、社会に寄与する研究教育と大学院生の待遇向上を実現することを目的とし、「未来価値創造研究教育特区（通称 FLOuRISH Institute）」を2021年4月に設置した。特区型 JIRITSU（自立）フェローシップ制度の導入とともに、アントレプレナー教育などの博士キャリアパス支援を実施する。

② 計画通り進んでいる事項

＜ダイバーシティ推進と新産業創出に向けた基盤の構築＞

- ・全学的組織としての卓越リーダー養成機構による農工融合による学位プログラムの実施とその審査システムを構築

- ・プログラム推進教員（特任）採用（特任教授1名、特任准教授2名、特任講師1名、外国人特任助教1名）および学内教員74名（卓越リーダー養成機構運営委員を含む）によるプログラム運営体制の構築とともに、アントレプレナー教育への教員研修を実施する

- ・ダイバーシティを推進していくための民間企業5社、各種3団体、1大学とのコラボレーション体制の構築

- ・新産業創出を牽引するための国内外連携機関（国内9機関・海外8機関）との新産業創出コンソーシアム構築と具体的施策に関する協議

＜国内外連携機関との連携による新産業創出およびダイバーシティ教育の展開＞

- ・卓越リーダーとしてのポテンシャルをもつ国内外優秀なプログラム学生の採用（現在の在籍数：73名；目標数値72名）（内訳：博士54名；修士19名；女子学生比率は41%；留学生比率は38%）

- ・コラボレーションによる新産業創出に向けた教育（8機関・5科目）の展開とベンチャー経験者等の学外メンター（3名）による新産業創出プログラムのサポート体制構築

- ・海外研修による連携機関や周辺諸国における農林業を中心とする領域に着目した新産業創出に関する教育（6機関・1科目）の展開

・オンラインによる講義やセミナーおよびワークショップ等を実施し、新型コロナウイルス感染症対策下においても国内外との連携を可能とするプログラムを実施

＜教育プログラムとしての効果検証＞

- ・ポートフォリオシステムを活用したプログラム学生のコンピテンシー評価の実施（科目履修によるコンピテンシー評価・観察評価）
- ・全プログラム学生との個別面談によるプログラムへの期待感、参画による成長度等の把握およびプログラム改善へのフィードバック体制確立
- ・学生との面談に基づくカリキュラム補強（卓越セミナー実施、機構長・副機構長との面談など）
- ・学生が主体的に取り組む研究力強化、事業展開などのプロポーザル型の提案課題へのサポート

③ 改善が必要な事項

＜ダイバーシティ推進と新産業創出に向けた基盤の構築＞

- ・新産業創出に関する教育プログラムと共同研究などをつなげる仕組みの充実が必要である。とくに学内の研究シーズから社会課題や社会ニーズなどを踏まえた PBL 型のカリキュラムへの接続とともに、PBL による課題提案の事業化をより確実に実施する仕組みが必要である。
- ・学位プログラムとして卓越リーダー養成機構が独立して QE1 および QE2 審査を実施することを明確化するために、学内規定を 2021 年 6 月に改訂する。
- ・学内ベンチャー立ち上げにむけて学内のサポート体制を強化し、「未来価値創造研究教育特区（通称 FLOuRISH Institute）」において実質化する。

＜国内外連携機関との連携による新産業創出およびダイバーシティ教育の展開＞

- ・優秀な学生の獲得として、2名の社会人博士課程学生を受け入れているが、より積極的に社会人博士人材を受け入れることで、多様なキャリアに対応した人材育成が可能となる。

＜教育プログラムとしての効果検証＞

- ・申請時には、連携機関（株）リクルートキャリアとの連携により、「リクナビ博士マッチングシステム」の構築としていたが、（株）リクルートキャリア社の業務戦略転換により、博士人材を企業等の関係者とマッチングシステムについては実施しない方針となった。そこで、本プログラムで展開する博士人材と企業との連携は、新たな仕組み作りから関連企業との連携を検討している。

④ プログラムとしての今後の見通し

本プログラムでは、三つの柱のさらなる発展とともに、農工融合による研究と社会実装により世界の学術領域や技術開発を牽引していく卓越博士人材を社会に送り出していく。これにより、農工融合のイノベーションエコシステムが全学や関連業界に波及していくプログラム展開をすすめる。

令和 3 年 4 月に設置された「未来価値創造研究教育特区（通称 FLOuRISH Institute）」では、本プログラムの人材育成カリキュラムが核となり、「知のプロフェッショナル」の継続的輩出の学内の制度として、大学発ベンチャー支援制度構築され、本プログラム生が研究シーズを社会実装するためのサポート体制が全学的に整備された。FLOuRISH Institute で提供するアントレプレナーシップやイントレプレナーシップ教育では、民間企業の研究者が学生とともに社会課題を解決する場となり、産学連携の事業展開や共同研究展開を実施できる環境となる。また、先端産学連携研究推進センター（URAC）との連携により、人材育成プログラムを展開するための起業・創業へのビジョン形成、事業展開デザイン力、事業実務などについての指導者人材育成を行う。これにより、本プログラムの全学展開の実装を加速化させる。

これらの産学連携や人材育成プログラムの構築により、産業界の更なる参画、共同研究の推進、大学発ベンチャー等の支援・創出を基礎にし、学外資金の継続的な確保を進めることで、卓越大学院プログラムの全学展開と持続性を担保する学内環境を整える。

ダイバーシティについては、本学女性未来育成機構との連携により、本プログラム生による学びを全学的な学びとして展開するとともに、学生のみならず、教職員がダイバーシティ・インクルージョンを学ぶ機会を提供し、オープンマインドと柔軟性をもつリーダー育成を学内外に展開する。

本プログラムで実装したポートフォリオシステムでは、コンピテンシー評価制度を本学の既存大学院へ応用も進めている。本プログラムのコンピテンシーの獲得状況分析から、21 世紀型の高度人材育成へ展開するために必要となる教育要素の抽出などを行う。